

会議等名	平成 28 年 第 5 回海老名市外部評価委員会						
日 時	平成 28 年 11 月 28 日 (月) 9 : 30 ~ 10 : 45						
場 所	海老名市役所 7 階 706 会議室						
出席者	出席者：城向副委員長、市川副委員長、高橋委員、杉山委員、大島委員、菅生委員、谷村委員、長谷川委員、山田委員、田中委員、武井委員 (以上 11 名出席) 海老名市：柳田財務部長、柳田財務部次長、伊藤企画財政課長、江下政策経営担当課長、横溝主事、木村						
<p>1. 開 会 江下政策経営担当課長</p> <p>2. あいさつ 柳田財務部長 阿部委員長から辞職願が提出され、受理をした。辞職願受理に伴い、1 名欠員となったため、新たに武井哲也氏に外部評価委員を委嘱したい。 本来であれば、市長より委嘱させていただくところだが、公務により、財務部長が代読し、委嘱をさせていただく。</p> <p>3. 委員委嘱 柳田財務部長より武井哲也氏へ委嘱状を交付</p> <p>4. 議題 (1) 委員長、副委員長の選出について 海老名市外部評価委員会条例第 5 条第 2 項に基づき、委員の互選により委員長を選任 ⇒ 城向副委員長を委員長に選任 同条例第 5 条第 3 項に基づき、城向委員長より副委員長を任命 ⇒ 大島委員を副委員長に任命 ※ 新たな委員長、副委員長の選出及び武井委員の新任に伴い、グループ編成を変更。なお、グループ編成にあたっては、各グループに委員長、副委員長を 1 名ずつ配置。 <新グループ編成></p> <table border="1"> <tr> <td>A グループ</td> <td>大島副委員長、高橋委員、武井委員、杉山委員</td> </tr> <tr> <td>B グループ</td> <td>城向委員長、霜田委員、菅生委員、谷村委員</td> </tr> <tr> <td>C グループ</td> <td>市川副委員長、長谷川委員、山田委員、田中委員</td> </tr> </table> <p>(2) 来年度の外部評価のあり方について ① 評価対象施策・事業について 平成 29 年度から平成 31 年度の 3 年間は『海老名市かがやき持続総合戦略』に位置付けられた 12 施策、112 事業について評価を行う。</p>		A グループ	大島副委員長、高橋委員、武井委員、杉山委員	B グループ	城向委員長、霜田委員、菅生委員、谷村委員	C グループ	市川副委員長、長谷川委員、山田委員、田中委員
A グループ	大島副委員長、高橋委員、武井委員、杉山委員						
B グループ	城向委員長、霜田委員、菅生委員、谷村委員						
C グループ	市川副委員長、長谷川委員、山田委員、田中委員						

② 評価シートについて

総合戦略事業を評価対象とすることから、施策評価シートについてはK P I を記載したシートを使用する。

- ・ 施策評価の項目を細かく分けることも方法の一つか。(委員)
- ・ 施策評価1、2については、内容が重複してしまう傾向にあるため、コメント欄を1つにしてしまってもよいのではないか。(委員)
→ コメント欄は1つにまとめる。適正配置がなされていない場合、進捗状況についてコメントするのが難しくなることが考えられる。記入方法については、工夫していく必要がある。(委員)
- ・ 事業評価シートは評価項目が細分化されているが、施策単位でとらえた際に、事業評価だけでは評価できていない部分があるように感じる。事業評価で評価しきれない部分を施策評価でいかに含むかも課題である。(委員)

③ 外部評価委員会からの指摘事項について

○ 行政評価調書について

計画期間 10 年間の経過を見ることを目的としている様式であることから、大きな様式変更は難しい。(事務局)

○ 事業評価について

- ・ 一律での評価は難しいと考えることから、一部の評価項目のみで評価を実施する方がよいのではないか。(委員)
→ 事業評価シートについてはそれぞれの事業を一律で評価することを目的としていることから、事業によって評価項目を変更することは、目的に反してしまう。(事務局)
- ・ 事業によっては評価できない項目がある。例えば、“県へ要望を行う”といった内容の事業において、費用対効果や成果を評価することは困難ではないだろうか。全ての事業で全ての項目を評価する必要はなく、事業ごとに評価する項目、しない項目を設定するのがよいのではないか。評価項目の設定は難しいが検討する必要がある。様式については現状のままでよいと考える。(委員)

○ 施策評価について

- ・ K P I について評価することは非常に有益であると考えている。数値的に見て判断をすることが必要。様式においても、組み込む必要があるか。(委員)

○ ヒアリングについて

- ・ 施策ヒアリングは、事業への質問ではなく、総合的な話をしたい。また、形式的なヒアリングではなく、活発な意見交換を行いたい。(委員)
- ・ 次長、担当部課と立場の違う方から話を聞けることは非常に有意義である。(委員)

- ・ 従前どおりヒアリングを行うが、より中身が充実するように工夫をする必要がある。
- ・ 現状では、事業ヒアリングは評価を行ったグループが、担当課へのヒアリングを行っている。次年度の施策ヒアリングは、評価を行ったグループ以外も含めて全委員でヒアリングを行うのもよいのではないか。ほかの事業についても知る事ができ、様々な視点からの評価につながるように思う。(委員)
 - 外部評価結果をまとめた後、評価結果を受け、次年度の取組みの方針について担当課へヒアリングをする機会がある。そこでのヒアリングを充実させる方がよいのではないか。全委員で行うのであれば、事業数も多く、やり方の工夫は必要である。(委員)
 - 全ての事業の予習なども含めて、かなりボリュームがあることから、委員の負担にもなってしまうように感じる。(委員)
 - 今年の評価事業に比べて評価対象事業はほぼ倍となっている。さらにそれら事業が位置付けられている施策についても評価していただくこととなる。評価事業数については、必要に応じて検討していただくこととなるが、事前に調書等に目を通していただくことを考えると、負担となってしまうことが考えられる。(事務局)
- ・ 施策ヒアリングを次長に対して行うことで、担当部課とは違った視点の意見を聞けることは重要であると考え。施策ヒアリングを次長に対して行い、外部評価委員の考え方などを伝えるという意味でも非常に有益であると考え。(委員)
- ・ 施策に位置付けられている事業ごとにヒアリングを行えば、事業評価から施策評価が一度に行えるため、時間を短縮することができるのではないか。(委員)

○ 評価事業について

- ・ 総合戦略事業 112 事業を評価対象とするが、評価する事業とグループは3年間同じとするか。(委員)
 - 検討が必要(事務局)
- ・ 事業評価を行い、位置付けられる施策が適切でないと判断した場合、別の施策の位置付けに変更することは可能か。(委員)
 - 平成 27 年度に総合戦略を作成した際に、毎年見直しを行うこととしているため、変更することは可能。(事務局)
- ・ 今年度に比べ評価事業数が増えることで負担も増えるが、評価の方法を工夫し、事務局から提示のあった 112 事業 12 施策を評価することとしたい。(委員長)
 - 次回の全体会までに、委員のみなさんの負担を少なくする工夫についても事務局で検討したい。(事務局)

5. 閉 会

以 上